

鹿肉などジビエのバーベキューで交流する参加者やスタッフ



交流・定住人口の拡大などに向け地域の魅力、課題を発掘するイベント「妙高市を『五感で感じ、可能性を探る』フィールドワーク(同市主催)が19、20日に開かれた。市外在住者を対象に募集した。

どこも、首都圏や長野県から、地域振興、ワークショップなどに関心のある計10人が参加し、市内の各所を巡った。

同日イベントは都市部と地方をつなぐ各種事業を手がける株式会社トレジャーフット(神奈川県鎌倉市、田中祐樹代表取締役)が企画・運営。同社は「プロポーザル応募を通じ」「妙高市起業創業支援・関係人口創出連携プロジェクト委託業務」を受託。今年9月には東京・渋谷キユースで関連イベントを実施した。

初日はMyokoc Office 高原駅前店に集合。「妙高の最新施設で国立公園を満喫」(MYOKO BAS CAMP、妙高高原ビスターセンター、いもり池)、「標高1300mで紅葉狩り」(笹ヶ峰高原)、「妙高山麓の溪谷と秘湯巡り」の3コースに分かれて散策。見学した後、茅葺(かやぶ)き屋根

# 「五感」で妙高感じて

## 首都圏などから10人 市内各所を散策、体験

### 妙高市

の旅館「はるみ荘」を会場に地元職人から茅細工を習い、妙高で

やってみたいことを話し合う「妙高委懇話会」を開いた。  
2日目は同市上小沢の古民家で大豆の葉欠きや小豆の収穫を体験。大滝荘では鹿肉などジビエのバーベキュー交流会が催された。二重拠点などに関心があつた参加した東京

都大田区の男性(48)は「長野はよく訪れるが、長野から近く、思った以上に自然に恵まれており驚いた。次は家族を連れて訪れたい」と好印象を話した。  
市と同社は今後も都内や市内でマッチング事業等を展開する計画でいる。

## 「認知症」テーマに 市民公開講座

講演や寸劇通じて理解 妙高市

妙高市上町の市勤労者研修センターで19日、市民公開講座「認知症になっても住み慣れた地域で生活を続けていけるように」が開かれた。市福祉介護課が認知症についての理解を深める目的で実施し、市民、関係者ら150人が聴講。定員を超える応募があり120人が同会場で、30人は市総合体育館のオンライン会場で聴講した。

講師には精神科医の長谷川洋さん(長谷川診療所)を迎えた。長谷川さんは認知症医療の第一人者として知られた故長谷川和夫さんの長男。和夫さんは88歳の時、自身も認知症であると公表していた。  
第一部では「認知症専門医の父が認知症になつて父、長谷川和夫とかわした言葉」と題して講演。「50年認知症の診断・研究に



「認知症になつてかわした言葉」  
長谷川 洋氏

# 妙高

【本社】  
〒943-8585 上越市高士町2-4-6  
TEL 025-525-6666  
FAX 025-525-6603

身近な情報話題をお寄せください

読みたいときに読める  
地元のニュース満載  
ニュースサイト  
**タイムス電子版**  
タイムス電子版は

- 紙面の記事が分野、地域別に読めます
- 文字入力による記事検索ができます
- 速報ニュースや特報記事が配信されます
- 新聞紙面の体裁でも記事が読めます